

Digital Cinema NOW



Oscar2023 候補作品のカメラとレンズ

川上 一郎

現地時間の3月12日(日曜日)に開催される第95回アカデミー賞の候補作品にあげられている作品賞 (Best Picture) 10作品と撮影賞 (Cinematography) 5作品の紹介と共に、使用されているカメラとレンズについて紹介していく。

アカデミー賞は主演男優賞 (Actor in a Leading Role : エンディングクレジットの先頭に名前が記載された男優)、助演男優賞 (Actor in a Supporting Role)、主演女優賞 (Actress in a Leading Role)、助演女優賞 (Actress in a supporting role)、アニメ作品賞 (Animated Feature Film)、撮影賞 (Cinematography)、衣装デザイン賞 (Costume Design)、監督賞 (Directing)、ドキュメンタリー賞 (Documentary Feature Film)、短編ドキュメンタリー賞 (Documentary Short Film)、編集賞 (Film Editing)、外国映画賞 (International Feature Film)、メイクアップ&ヘアスタイリング賞 (Makeup and Hairstyling)、音楽賞 (Music Original Score)、歌唱賞 (Music Original song)、最優秀作品賞 (Best Picture)、プロダクションデザイン賞 (Production Design)、短編アニメ賞 (Short Film Animated)、短編作品賞 (Short Film Live Action)、サウンド賞 (Sound)、VFX賞 (Visual Effects)、脚色賞 (Writing Adapted Screenplay)、脚本賞 (Writing Original Screenplay) の23部門があり、これまでの歴史と併せて、ハリウッドの映画制作では様々な職種別組合やギルドの存在があることから、各部門への敬意を込めて各賞の選定が行われている。従って、8千人と言われているアカデミー会員は、自分の所属する部門の候補作品から最優秀賞を選定すると同時に、最優

秀作品賞の投票も行うことになり、オスカー賞選考レースの下馬評でもっとも難しいとされているのが最優秀作品賞である。

なお、最優秀作品賞10作品と撮影賞5作品の中で3作品は両部門にノミネートされているので12作品について作品の概要と使用カメラそしてレンズを紹介していく。

図1に示しているのは、“All Quiet on the Western Front” (邦題：西部戦線異状なし) である。最初に映画化された1930年の作品は最優秀作品賞と監督賞を受賞しており、リバイバル作品が最優秀作品賞を受賞すれば快挙となり、さらにNetflix配給作品の受賞としても話題性がある。

原作自体はエリッヒ・マリア・レマルク氏の長編小説であり、第一次大戦でドイツ

軍の新人兵士として参戦した若者の戦場での出来事を淡々と描写し、主人公である若者が戦死した当日も所属部隊が司令部に提出した報告は“西部戦線異状なし”の一文のみであった。

ウクライナに対するロシア侵攻を受けてアカデミー会員がどのようにこの映画作品にたいして共感を感じるのか、はたまたNetflixがハリウッド地域で最大の映画制作プロダクションとなった影響も含めて作品賞への投票動向が興味深いところである。

監督はEdward Berger氏、撮影監督はJames Friend氏であり、制作プロダクションはベルリンのAmusement Park Filmsである。Netflixが配信していることから興行売上などは公開されていない。なお、アカデミー賞への応募要件としてロサンゼ



図1 All Quiet on the Western Front

Cameras
ARRI ALEXA 65, ARRI ALEXA Mini LF
Sony VENICE, RED Epic Dragon.
Lenses
ARRI Prime DNA, Tribe7 Blackwing7
Zeiss Compact Prime CP.3

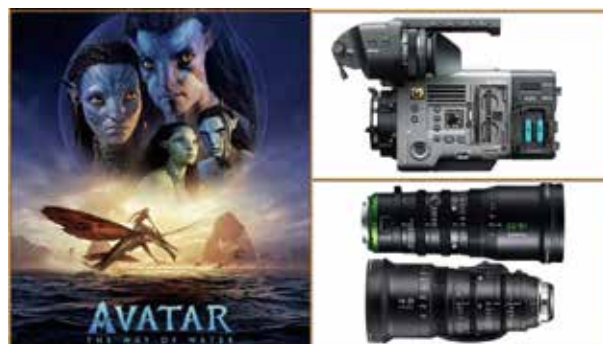


図2 Avatar : The Way of Water

Cameras
Sony VENICE
Lenses
Fujinon MK and Premier Cabrio

ス地域の映画館で1週間以上の商業上映が義務づけられているが、このお披露目上映の売上も非公開である。

使用されたカメラはARRI ALEXA65、ALEXA Mini LF、Sony VENICE、RED Epic Dragonの4機種で、使用したレンズもARRI Prime DNA、Tribe 7 Blackwing 7、Zeiss Compact Prime CP3となっており、戦闘シーンの撮影条件に合わせてカメラとレンズの組み合わせを変えていることがうかがえる。

図2は“Avatar The Way of Water”である。3D撮影のためにカメラヘッド分離型のSony VENICEが使用されており、レンズはFujinon MKとPremier Cabrioが採用されている。なお、先月号にも紹介しているが水中撮影用ステレオカメラリグではNikonのレンズも使用されている。

米国現地時間2月23日での興行売上は米国カナダ地域で\$660,683,862(1\$:135\換算では891億円)、全世界興行売上では\$22億4937万17822(1\$:135\換算では3,036億円)となっている。

図3は“The Banshees of Inisherin”であり、アイルランドの西海岸沖にある離島を舞台にした物語である。制作はサーチャイトピクチャーで、配給はディズニーが行っている。封切週の興行売上は1,040万ドル(4スクリーン)で、2月23日時点での全世界興行売上は4,366万ドルである。

使用されたカメラはARRI ALEXA Mini LFで、レンズはARRI Signature Primeである。

図4は“Elvis”で、米国の音楽史に燦然と輝くエルビス・プレスリーと伝説的な存在として語り継がれているマネージャーとの複雑な人間模様を交えて描いた作品である。

監督はBaz Luhrman、撮影監督はMandy Walkerが担当している。

制作・配給はワーナー・ブラザーズであり、推定製作費は8,500万ドルで、封切週の興行売上は3,121万ドルで2月23日時点での全世界興行売上は2億8734万ドルとなっている。

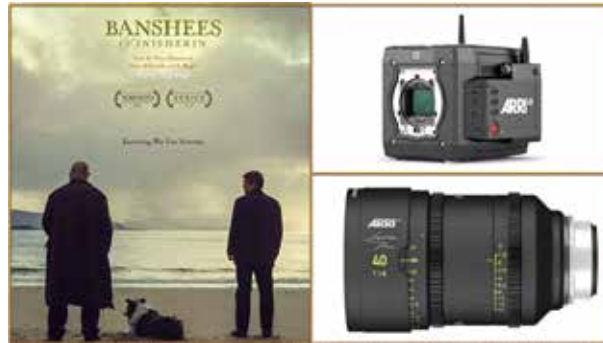


図3 The Banshees of Inisherin

Cameras
ARRI ALEXA Mini LF
Lenses
ARRI Signature Prime

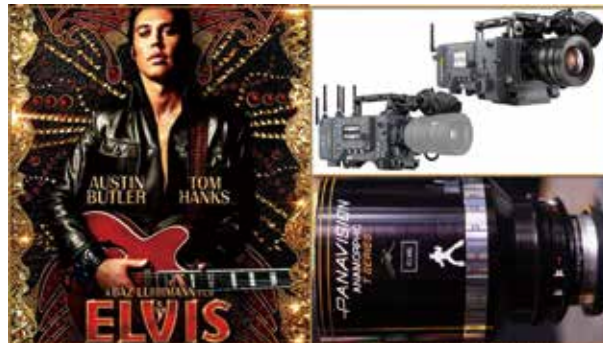


図4 Elvis

Cameras
ARRI ALEXA 65
ARRI ALEXA LF
Lenses
Panavision Primo
Panavision Sphero 65
Panavision T-Series “Elvis”
Petzval



図5 Everything Everywhere All at Once

Cameras
ARRI ALEXA Mini
Lenses
Atlas Orion Anamorphic
Scorpions
Todd-AO,



図6 The Fabelmans

Cameras
Panavision Panaflex
Millennium X12
ARRIFLEX 16 ST
ARRIFLEX 416
Lenses
Panavision Primo



図7 Tár

Cameras
ARRI ALEXA 65
ARRI ALEXA Mini LF
Lenses
ARRI Signature Prime



図 8 Top Gun :
Maverick

Cameras
Sony VENICE
Lenses
ARRI Master Prime
Zeiss Loxia
Sigma FF High Speed

使用されたカメラはARRI ALEXA 65 と ALEXA LF であり、レンズは Panavision Primo,

Panavision Sphero 65, Panavision T-Series “Elvis” , Petzval である。

図 5 は “Everything Everywhere All at Once” で、中国人移民の女性が経営するコインランドリーで起きる異次元空間との混乱を描く作品であり、インディペンデント映画プロダクションでの A24 が制作・配給を行い、日本では GAGA が配給を行っている。

推定製作費は 2,500 万ドルで、封切週の興業売上は 10 スクリーンで 50 万ドルと低調であったが口コミにより 2,2215 スクリーンにまで上映スクリーン数が増加し、2 月 23 日時点で米国カナダ地域では 7,290 万ドル、全世界では 1 億 743 万ドルにまで興業売上を伸ばしてきている。

監督は Dan Kwan, 撮影監督は Larkin Seiple が担当し、使用したカメラはARRI ALEXA Mini、レンズは Atlas Orion Anamorphic、Scorpiolens、Todd-AO である。

図 6 は “The Fabelmans” で、巨匠スピルバーグ監督の自叙伝と言える作品である。当然のことながら監督はスピルバーグ本人で、撮影監督は Janusz Kaminski が担当している。制作プロダクションは Amblin Entertainment で、ユニバーサルピクチャーが配給を行っている。

製作費は 400 万ドルで、封切週の興業売上は 16 万ドル（4 スクリーン）であったが、じわじわと評判を呼び、1,962 スクリーンまで上映スクリーン数を伸ばしており、米国カナダでの興業売上は 1,714 万ドル、全世界では 3,138 万ドルを売り上げている。

使用されたカメラは Panavision Panaflex Millennium XI2, ARRIFLEX 16 ST、ARRIFLEX 416 のフィルムカメラであり、レンズは Panavision Primo が使用されている。

使用されたフィルムは 16mm が Kodak Vision3 250D 7207, Vision3 500T 7219 で、35mm が Kodak Vision3



図 9 Triangle of
Sadness

Cameras
ARRI ALEXA Mini LF
RED Helium 8K
RED Gemini
Lenses
Zeiss Supreme Prime



図 10 Women Talking

Cameras
Panavision Millennium DXL2
Lenses
Panavision Primo
Panavision Ultra Vista



図 11 Bardo, False
Chronicle of a Handful of
Truths

Cameras
ARRI ALEXA 65
Lenses
Panavision 65 Vintage
Tribe7 Blackwing7
Canon FD



図 12 Empire of Light

Cameras
ARRI ALEXA Mini LF
Lenses
ARRI Signature Prime
Cooke S7/1

500D 5203 Vision3 250D 5207, Vision3 500T 5219、8mm は Kodak Vision3 250D 7207, Vision3 500T 7219 である。

フィルム現像は Fotokem Laboratory Burbank, デジタルインターメディアイトは Picture Shop が行っている。

図7は“Tár”で、ベルリンフィル管弦楽団で初の女性指揮者となった主人公を巡るドラマである。制作・配給は Focus Feature で。カメラは ARRI ALEXA 65、ALEXA Mini LF、レンズは ARRI Signature Prime を使用し、Codex に ARRIRAW フォーマットで収録し、ロンドンの Company3 がラボ作業をおこなっている。

なお、製作費は 3,500 万ドルを投入しているが、2月23日時点での全世界興収は 1,530 万ドルでしか無く、クラシック音楽を舞台にした映画の難しさを物語っている。

図8は“Top Gun : Maverick”で、戦闘機の操縦席内にカメラヘッド分離型の Sony Venice を搭載し実写による戦闘シーンが話題となった。

なお、IMDBpro による使用カメラとレンズは Sony CineAlta Venice IMAX、Zeiss Master Prime、Loxia、Sigma FF High Speed、Voigtlander and Fujinon Premier Lenses (Sony) / Sony CineAlta Venice Rialto IMAX、Zeiss Master Prime、Loxia、Sigma FF High Speed and Voigtlander Lenses (Sony) となっており、IMAX 認証の CineAlta Venice も操縦席内に搭載されている。

製作費は 170 ミリオンドルで、全世界興業売上は 1,488 ミリオンドルの大ヒットとなっている。

図9は“Triangle of Sadness”で、豪華クルーズに招待されたカップルが無人島に取り残されて生存のために戦う姿を描いている。制作は Imperative Entertainment で配給は Neon が行っている。製作費は 1 千万ユーロで、全世界興業売上は 2,393 万ドルをあげている。

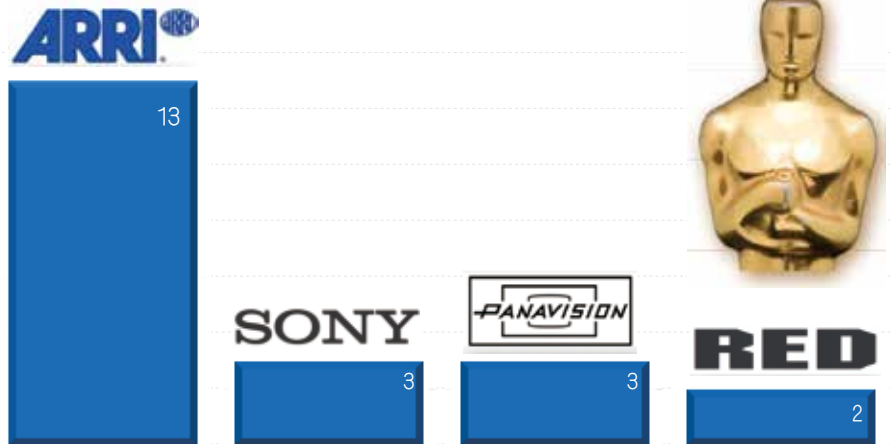


図 13 Oscars 2023 : カメラメーカー別チャート

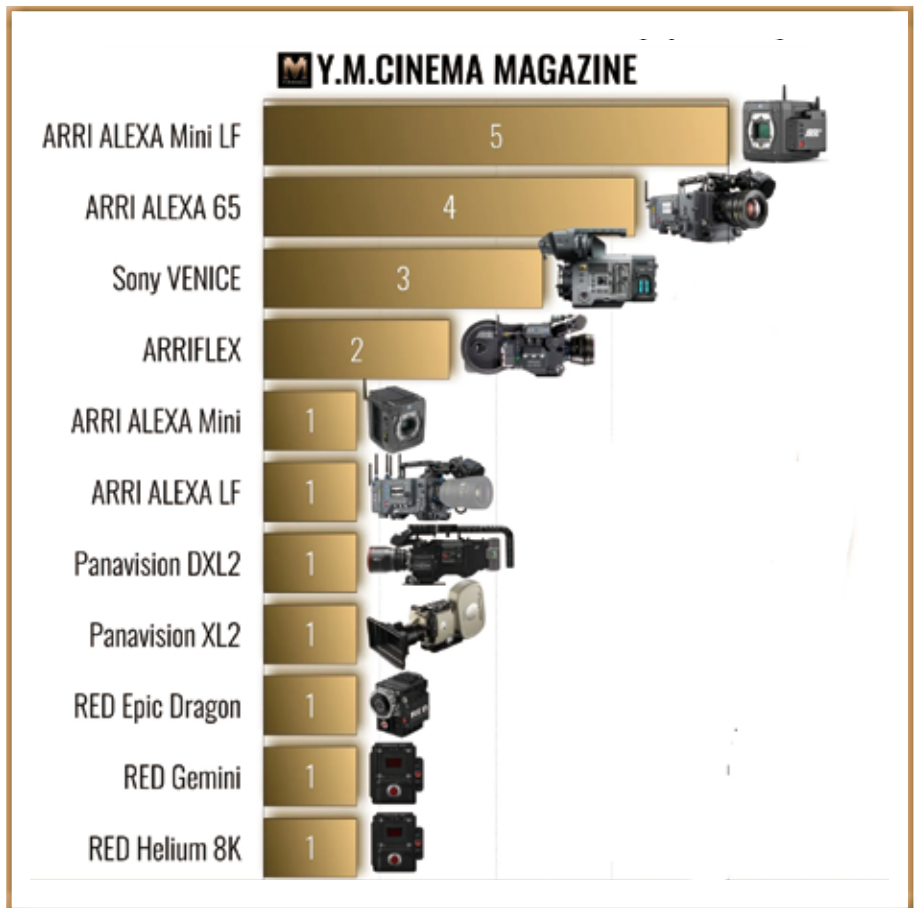


図 14 Oscar 2023 : カメラ機種別チャート

使用カメラは ARRI ALEXA LF と RED Gemini 5K, RED Helium 8K であり、レンズは Zeiss Supreme Prime である。収録は CFast2.0 に ARRIRAW と RedcodeRAW フォーマットで行っている。

図10は“Women Talking”で、孤立した宗教コミュニティの中での女性たちの戦いを描いた作品である。制作は Hear/Say Productions で、配給は United Artists Releasing が行っている。製作費は非公表であるが、全世界の興業売上は 555 万ドルとなっている。

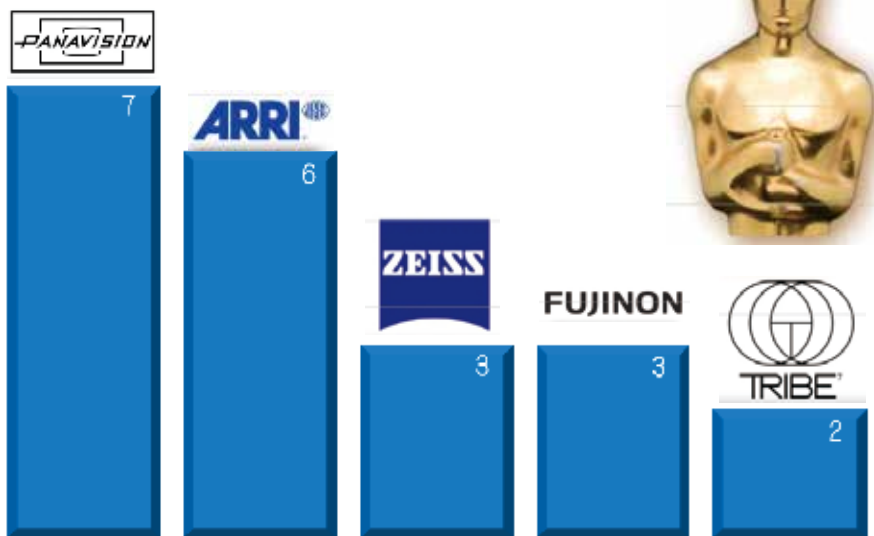


図 15 Oscars 2023 : レンズメーカー別

たらず様々な体験を描いている。

使用したカメラは ARRI ALEXA 65 で、使用したレンズは Panavision 65 Vintage, Tribe7 Blackwing7 そして Canon FD である。

収録は Codex を使用して ARRIRAW (6.5K) で行っている。

図 12 は “Empire of Light” で、地方の町にある映画館のマネージャーと新入社員がおりなす映画上映にまつわる物語である。

使用したカメラは ARRI ALEXA Mini LF で、レンズは ARRI Signature Prime と Cooke S7/i である。

制作は Neal Street Production (London) で配給は Searchlight Pictures が行っている。

収録は Codex に ARRIRAW (4.5K) で行っている。

図 13 は、オスカー賞の作品賞と撮影賞にノミネートされた 12 作品でのカメラメーカー別チャートである。ARRI は圧倒的に強く 13 作品で使用され、SONY と Panavision が 3 作品と続いている。

図 14 はカメラ機種別のチャートであり、ARRI ALEXA Mini LF が 5 作品と圧倒しており、ARRI ALEXA65 が 4 作品と続いている。フィルムカメラは ARRIFLEX と Panavision XL2 が使用されている。

図 15 はレンズメーカー別チャートであり、Panavision が 7 作品、ARRI が 6 作品、Zeiss が 3 作品となっている。

図 16 はレンズ機種別チャートである。ARRI Signature Prime と Panavision Prime が 3 作品で使用され、ARRI Master Prime, Tribe7 Blackwing7 が 2 作品と続いている。

1) 引用文献 <https://ymcinema.com/2023/02/06/oscars-2023-cameras-and-lenses/>

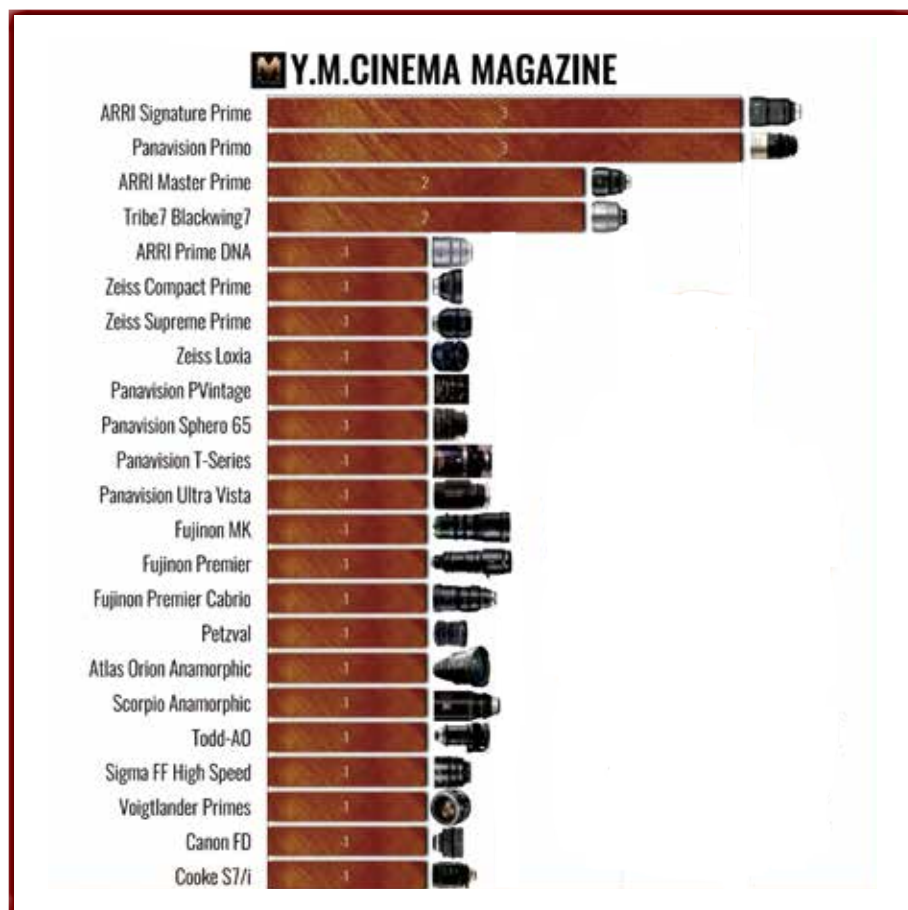


図 16 Oscar 2023 : レンズ機種別

カメラは Panavision Millennium DXL2 (RED の OEM 製品) でレンズは Panavision Primo と Panavision Ultra Vista を使用している。

図 11 は “Bardo, Fales Chronicle of a Handful of Truths” で、ロサンゼルス在住のメキシコ人ドキュメンタリー映画制作者を主人公にして、生まれ故郷への旅がも

Ichiro Kawakami
 デジタル・ルック・ラボ